

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第3部門第2区分  
 【発行日】平成19年4月5日(2007.4.5)

【公表番号】特表2006-522115(P2006-522115A)  
 【公表日】平成18年9月28日(2006.9.28)  
 【年通号数】公開・登録公報2006-038  
 【出願番号】特願2006-507997(P2006-507997)  
 【国際特許分類】

**A 6 1 K 31/4184 (2006.01)**  
**A 6 1 K 45/00 (2006.01)**  
**A 6 1 K 45/06 (2006.01)**  
**A 6 1 P 43/00 (2006.01)**  
**A 6 1 K 31/4178 (2006.01)**  
**A 6 1 K 31/437 (2006.01)**  
**A 6 1 K 31/506 (2006.01)**  
**A 6 1 K 31/4196 (2006.01)**  
**A 6 1 K 31/4709 (2006.01)**  
**A 6 1 K 31/519 (2006.01)**  
**A 6 1 K 31/4422 (2006.01)**  
**A 6 1 P 9/12 (2006.01)**  
**A 6 1 P 3/10 (2006.01)**  
**A 6 1 P 3/04 (2006.01)**  
**A 6 1 P 9/10 (2006.01)**  
**A 6 1 P 3/06 (2006.01)**  
**C 0 7 D 403/10 (2006.01)**

【F I】

A 6 1 K 31/4184  
 A 6 1 K 45/00  
 A 6 1 K 45/06  
 A 6 1 P 43/00 1 2 1  
 A 6 1 K 31/4178  
 A 6 1 K 31/437  
 A 6 1 K 31/506  
 A 6 1 K 31/4196  
 A 6 1 K 31/4709  
 A 6 1 K 31/519  
 A 6 1 K 31/4422  
 A 6 1 P 9/12  
 A 6 1 P 3/10  
 A 6 1 P 3/04  
 A 6 1 P 9/10  
 A 6 1 P 3/06  
 C 0 7 D 403/10

【手続補正書】  
 【提出日】平成19年2月8日(2007.2.8)  
 【手続補正1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

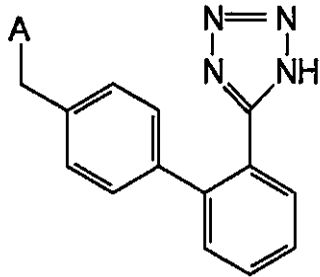
【請求項 1】

代謝症候群の予防及び/または処置のための医薬の製造のための、アンギオテンシン I I タイプ 1 受容体アンタゴニストの単独での、または代謝的に中性な抗高血圧物質との組み合わせでの、使用。

【請求項 2】

前記のアンギオテンシン I I タイプ 1 受容体アンタゴニストが一般式 I :

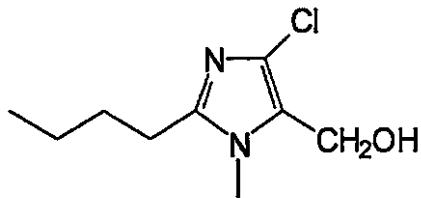
【化 1】



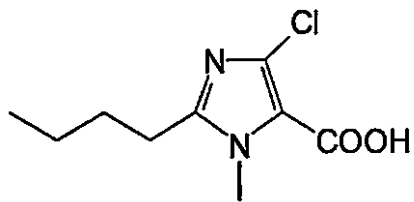
I

(式中、Aは、

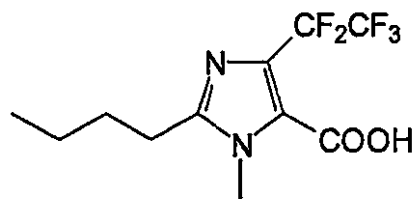
【化 2】



I:1

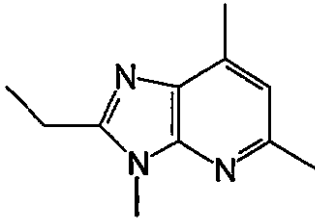


I:2

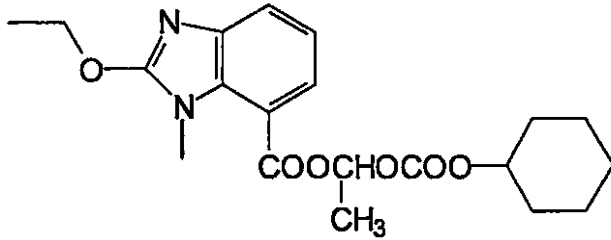


I:3

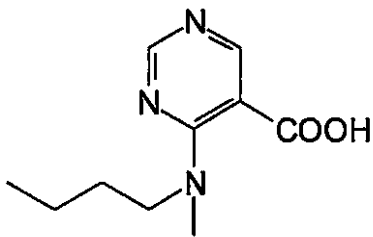
【化 3】



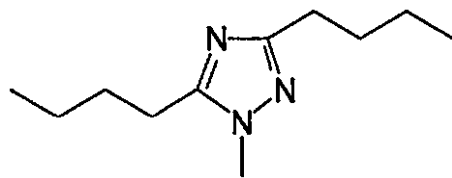
I:4



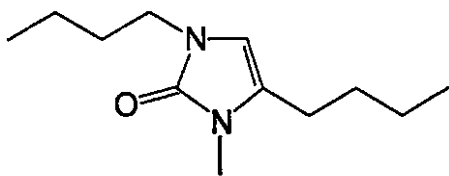
I:5



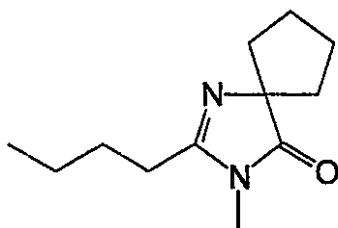
I:6



I:7

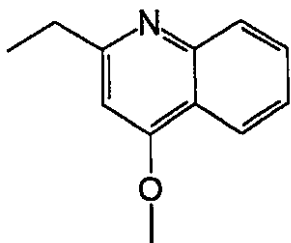


I:8

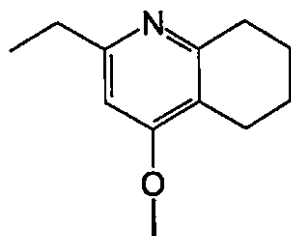


I:9

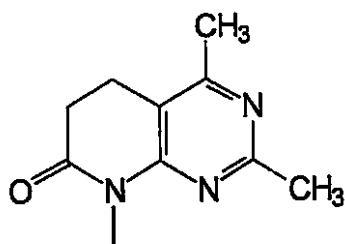
## 【化 4】



I:10



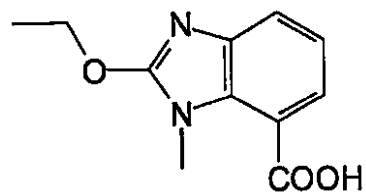
I:11



I:12

及び

## 【化 5】



I:13

からなる群から選択される)、またはこれらいずれかの化合物の医薬的に受容可能な塩、溶媒和物または立体化学的異性体、または前記塩の溶媒和物である、請求項 1 に記載の使用。

## 【請求項 3】

A が I : 5 である、請求項 2 に記載の使用。

## 【請求項 4】

A が I : 13 である、請求項 2 に記載の使用。

## 【請求項 5】

前記の代謝的に中性な抗高血圧物質がカルシウム受容体拮抗薬である、請求項 1 乃至請求項 4 のいずれか 1 項に記載の使用。

## 【請求項 6】

前記の代謝的に中性な抗高血圧物質が、アムロジピン、ベラパミル、ニフェジピン、ニモジピン、ジルチアゼム、ニカルジピン、フェロジピン、エムロジピン、リオシジン、ラシジピン、ニグルジピン、ニルジピン、ニソルジピン、ニトレンジピン、ニバルジピン、イスラジピン、フルナリジン、ジルチアゼム、ミベフラジル、プレニルアミン、フェンジリン、ガロパミル、ベラパミル、チアパミル及びアニパミル、並びに各場合においてそれ

らの医薬的に受容可能な塩、のいずれかから選択される、請求項 5 に記載の使用。

【請求項 7】

前記アンギオテンシン II タイプ 1 受容体アンタゴニストの 1 日量が約 0.01 mg から約 1000 mg である、請求項 1 乃至請求項 6 のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 8】

前記アンギオテンシン II タイプ 1 受容体アンタゴニストの 1 日量が約 0.1 mg から 750 mg である、請求項 7 に記載の使用。

【請求項 9】

前記アンギオテンシン II タイプ 1 受容体アンタゴニストの 1 日量が約 1 mg から 500 mg である、請求項 8 に記載の使用。

【請求項 10】

前記アンギオテンシン II タイプ 1 受容体アンタゴニストの 1 日量が、カンデサルタンとして計算して 1 日当たり約 0.1 mg から約 300 mg である、請求項 3 に記載の使用

。